

令和4年度 第3回第2期和光市スポーツ推進計画策定委員会 会議録（要録）

1 日 時 令和4年9月30日（金）19時00分～21時00分

2 場 所 和光市役所 6階 602会議室

3 出席者 8名

委員名	選任の区分	備考	出欠席
◎飯田 路佳	第1号委員 (学識経験を有する者)	十文字学園女子大学人間生活学部 健康栄養学科	○
大冢賀 政昭		国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部	○
横島 秋男	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市スポーツ協会	○
○朽木 亮		和光市スポーツ推進委員連絡協議会	○
冨澤 勝広		和光市スポーツ少年団本部	
藤 律之		和光市小中学校長会	○
荒木 保敏		和光市社会福祉協議会	
山崎 岩男		和光市生きいきクラブ連合会	
新井 悦子		和光市青少年を育てる会連合会	○
鷹栖 藍太郎	第3号委員 (公募による市民)		○
尾野 日登美			○

◎委員長 ○副委員長

（事務局）スポーツ青少年課 鈴木課長・森谷課長補佐・小林統括主査・木村主事

4 傍聴者 なし

議題1 アンケート集計結果について

【事務局】

7月中旬から8月上旬にかけて、児童・生徒及び市民向けアンケートを行いました。回答回収率は一般向けアンケートが34.6%、児童生徒向けアンケートが85.0%となっております。

アンケート集計結果について、説明いたします。

「スポーツ・レクリエーション活動に関する市民意識調査」は、1. 一般調査、2. 小学生・中学生調査の2種類の調査を実施したうえで、それぞれのアンケート調査の結果より得られた課題について整理しました。

今回のアンケート調査では、市内に居住する満18歳以上の市民から無作為に抽出した1,000名を対象とし、有効回収率が34.6%となっております。また、市内の小学校に通う小学5年生、市内の中学校に通う中学2年生1,303名を対象とした「小学生・中学生調査」では、有効回収率が87.5%という結果でした。

【「一般調査」の結果について】

（スポーツを「する」状況について）

週1日以上スポーツをする人の割合を「スポーツ実施率」と言いますが、その「スポーツ実施率」は今回の調査では66.8%となっており、前回調査と比較して33.2ポイント増加しています。

男性では30代で41.7%、60代で54.5%、女性では40代で56.4%と他の年代を大きく下回っており、年代によりばらつきがあります。

なお、今回のアンケートでは、国や県において実施されている調査と同様に、『日常的に無理のない形で楽しみや健康のために生活習慣や意識を少しでも変えて取り組む行動についても「スポーツ」として捉える』こととして調査を行っており、前回調査と同様の定義で集計した結果は、28.9%と前回調査と比較して4.7ポイントの減少となっております。

次に、この1年間でスポーツを「ほとんどやっていない」人は、21.7%となっており、その理由については、「仕事、家事、育児、勉強などで忙しく時間がない」と回答した人が57.3%と他の回答と比較して多くなっています。

しかし、「スポーツをやらない」と回答した人のうち、『スポーツをやらない理由が改善されたらスポーツをしてみたいか』とたずねた結果については、「してみたい」と回答した人が61.3%となっており、「したくない」と回答した4.0%の人と比べて57.3ポイント上回っています。

特に、最も多くの方が回答していた「仕事、家事、育児、勉強などで忙しく時間がない」については、76.7%の人が、その理由が改善されたらスポーツをしてみたいと回答しています。

したがって、ライフステージの変化により、時間的な制約を受けるなどスポーツに取り組めない市民に対し、日常的に無理のない行動も「スポーツ」に含まれるという考え方を広く普及・啓発するとともに場所や機会の提供に努めるなど、ライフステージに合わせた無理なくスポーツに取り組める機運醸成に向けた取り組みが必要と考えられます。

（スポーツを「観る」状況について）

この1年間に「スポーツを観戦したことがある」人の割合は62.1%となっています。このうち、観戦方法は、「テレビ」が91.2%と最も多く、次いで、「現地観戦」が34.4%となっています。

このうち、現地でスポーツを観戦した人に絞ると、21.4%と前回調査より17.0ポイント減少しています。

なお、現地でスポーツを観戦した理由は、「そのスポーツが好きだから」が54.3%となっており、続いて、「応援しているチームがあるから」が24.9%となっています。

和光市では、市の施設を利用してプロスポーツの試合を開催しておりますが、実際に現地でスポーツを観戦することで、臨場感や一体感を味わうなど、スポーツの楽しさを肌で感じることができることから、地域で行われるレベルの高い試合の観戦に市民が関心を持ってもらうため、開催を広く周知するなどの取り組みを強化することが必要と考えられます。

（「支える」スポーツの状況について）

最近1年間でスポーツに関する指導や、スポーツイベントの運営やボランティアとして参加したことがある人の割合については、前回の調査よりは増加したものの、6.9%にとど

まっています。

また、スポーツに関するボランティア活動を『してみたい』と回答した人の割合は、「ぜひしてみたい」と回答した人と「できればしてみたい」と回答した人の合計で29.5%と、「あまりしたくない」と回答した人と「まったくしたくない」と回答した人の割合の合計である51.4%を下回っています。

なお、ボランティアに参加するための条件の割合については、「時間が合えば」と回答した人が48.8%と多くなっています。

しかし、条件についての設問について、「参加したいと思わない」と回答した人が22.8%となっており、スポーツを支える市の取り組みについて、市民の関心を喚起する取り組みを強化していくことが必要と考えられます。また、スポーツに関するボランティアに、市民が無理なく参加できる仕組みづくりを検討する取り組みを併せて推進することが必要であると考えられます。

（スポーツに関する情報について）

スポーツに関する情報の入手先は「広報わこう」が71.4%と最も多く、前回調査と比較しても25.2ポイントの増加となっています。

市のスポーツに関する情報で不足していると思われるものについては、「スポーツができる場所や施設の情報」が37.6%と最も多く、続いて、「スポーツ行事・大会やイベントの情報」が33.5%となっています。

したがって、市民が求める情報に的確に対応できるように、情報提供の方法や、提供する情報の内容の検討など、スポーツに関する情報を提供する仕組みを強化する取り組みを検討していくことが必要と考えられます。

（和光市の取り組みについて）

「運動やスポーツを行う上で、必要なスポーツ指導者についてについては、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が67.1%、次いで、「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」が58.1%の回答となっています。

上位2つの回答について、最も回答が多かった、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」と回答した人は、若い人ほど多い傾向となっていますが、「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」と回答した人は、年代の高い人ほど多い傾向となっています。

したがって、年代に応じて、必要とされるスポーツ指導者が異なるという結果が得られたことから、ニーズに応じた指導者の育成や機会の提供が必要と考えられます。

続いて、和光市のスポーツ推進に望まれる仕組みとしては「参加しやすいスポーツ行事を増やす」が44.2%と最も多くなっています。しかし、和光市で実施しているスポーツ行事である「市民体育祭」に参加した人は、16.5%にとどまっています。

したがって、市民が参加しやすい形式での実施するスポーツ行事を検討するなど、市民ニーズに対応したスポーツ推進に向けた取り組みの強化が必要であると考えられます。

【「小学生・中学生調査」の結果について】

（スポーツを「する」状況について）

スポーツをすることが「好き」と「どちらかといえば好き」と回答した人の合計は、80.1%と、前回調査から 2.3 ポイント増加しています。

学校の授業以外で週 1 日以上スポーツをしている人の割合を示す「スポーツ実施率」は 85.1%となり、前回調査と比較して 6.8 ポイント増加しています。

また、この 1 年間でスポーツを「ほとんどやっていない」と回答した人の割合は、9.5%と前回調査より 3.0 ポイント減少しています。

スポーツを「ほとんどやっていない」と回答した人について、その理由は、「スポーツが苦手」と回答した人が 44.8%と最も多くなっています。

ただし、「スポーツをやらない」と回答した人のうち、『スポーツをやらない理由が改善されたらスポーツをしてみたいか』とたずねた結果では、「してみたい」との回答が 35.2%となっており、「したくない」と回答した 20.0%を上回っています。

特に、スポーツをやらない理由として最も多くの回答である「スポーツが苦手」についても、31.9%の人が、その理由が改善されたらスポーツをしてみたいと回答しています。

また、スポーツをやらない理由として 19.0%の人が回答した「塾・習い事などで時間がない」では 50.0%の人が、21.0%の人が回答した「勉強と両立ができない」では 40.9%の人が、その理由が改善されたらスポーツをしてみたいと回答しています。

したがって、スポーツが苦手であると考えてスポーツに取り組めない人や、時間的な制約によってスポーツに取り組めない人に対して、日常的に無理のない行動も「スポーツ」に含まれるという考え方を広く普及・啓発することが必要です。

さらに、場所や機会の提供に努めることやスポーツを始められる環境の整備など、無理なくスポーツに取り組める機運醸成に向けた取り組みが必要と考えられます。

（スポーツを「観る」状況について）

この 1 年間にスポーツ観戦したことがある人は 72.5%となっています。

このうち、観戦方法は、「テレビ」が 91.8%と最も多く、次いで、「現地観戦」が 39.7%となっています。

このうち、現地でスポーツを観戦した人に絞ると、28.8%と前回調査より 20.5 ポイント減少しています。

なお、現地でスポーツを観戦した理由については、「そのスポーツが好きだから」が 48.6%、「たまたま・なんとなく」が 24.5%となっています。

小・中学生に対しても、大人と同様、地域で行われているレベルの高い試合を観戦してもらい、臨場感や一体感を味わうことでスポーツの楽しさを肌で感じてもらうため、市の施設を利用して行われるプロスポーツの試合の開催を広く周知する取り組みを強化していくことが必要と考えられます。

（「支える」スポーツの状況について）

最近 1 年間でスポーツに関する指導や、スポーツイベントの運営やボランティアとして参加したことがある人の割合は、前回調査より減少して、6.1%にとどまっています。

またスポーツに関するボランティア活動を『してみたい』と回答した人の割合は、「ぜひしてみたい」と「できればしてみたい」と回答した人の合計で 38.7%にとどまるものの、「あまりしたくない」と「まったくしたくない」と回答した人の割合の合計の 35.9%を上

回っています。

したがって、学校教育の場を通じた周知・啓発を更に強化するなど、「支える」スポーツについて関心を持ってもらう取り組みを一層、推進していくことが必要と考えられます。

（スポーツに関する情報について）

スポーツに関する情報の入手先は「インターネット」が31.7%と最も多く、「知人から」が26.4%で続いています。

市のスポーツに関する情報で不足していると思われるものについては、「特になし（不足している情報はない）」が39.7%と最も多く、「スポーツ行事・大会やイベントの情報」が28.7%、「スポーツができる場所や施設の情報」が26.9%と多くなっています。

小・中学生に対しても、大人と同様に、必要とされる情報に的確に対応できるような情報提供の仕組みや方法、内容の検討を図っていくことが必要と考えられます。

今回調査については、新型コロナウイルス感染症が流行しており、前回調査との状況が違う所はありますが、中間見直しの時から、引き続き取り組むべき課題や、新たに取り組むべき課題がある程度整理できたことから、次の議題における骨子案の確認後、具体的な施策や施策の達成度合いを測れる目標値設定に取り組んでいきたいと思います。

【委員長】

事務局からの説明を受けて質問等ございますでしょうか。

【大賀賀委員】

これから議論する骨子案や内容に繋がっていくと思いますので、感じた事をいくつか述べさせていただきます。

まず、コロナの状況下と、今回調査結果が違うということですが、正直数字がかなり違って驚きました。6ページのスポーツをする状況で、31.7ポイント違うというのは、あまりにも違うのに驚きました。これはコロナの状況におけるスポーツをする状況と、今のスポーツをする状況が少し変わったという事だと思います。それに関連して、一般のスポーツをする人の割合も、スポーツをする人の割合が33.2ポイントも増加していて、しかも国や県のスポーツ実施率を上回っている状況なので、かなり前回計画策定時のアンケートではネガティブな意見が多かったと思います。今回のこの調査結果を見る限り、国や県よりもスポーツに携わっている人の割合が多い状況だと言えますと思います。これを踏まえて更にこういった人達の意欲を喚起して、スポーツを盛んにしていくためにはどうしたらいいのかという視点に立って、計画の方針や要点整理をすればいいと思いました。

あと私が気になったのは10ページの中段で、スポーツをやらないと回答した人のうち、やらない理由が改善されたいと回答した人が6割ぐらいいて、制約を取り払えば6割はやる方向に変わるので、興味関心がある人達のニーズを引き出す環境整理をしていくために、計画でこういった論点を整理して、市のスポーツに対する振興策を考えていくことが重要だと思いしました。

11ページの上段を見ると、遊歩道、自宅、公園等かなり身近なところで運動している人が多いと感じています。これが後段につながっていくのですが、19ページでは環境の設備を聞いているのですが、1～2割くらいの人は何らかのスポーツ施設を整備してほしいと

いう要望を出しているのですが、どこまで応えられるかという問題がありますが、環境整備をすれば和光市のスポーツに関する意識を喚起して、スポーツが盛んなまちと言ってもいいぐらいになるかもしれないという希望がみえると思ったのですが、ハード面の整備ができるのか、もしそれが叶わない時に、福祉のまちづくりで進めているような、介護・子育て・障がい者の方とか、生活保護に対する困窮者の支援とか、健康づくり施策のお金や居場所づくりのような施策をスポーツという施策に目を向けることで、既存の資源を活用できる可能性もあるので、是非私が委員になったということも活かしていただいて、そういった面もこの中に入れていただければと思っています。

それに関わる事で21 ページですが、スポーツ振興で望む仕組みについてですが、先程のインフラに加えて、高齢者のスポーツ参加を促進するための相談・援助・支援の充実が24.3%、健康維持・体力増進のための相談会やスポーツ教室の充実が33.5%、総合型地域スポーツクラブの要望も34.7%と、私が注目したのはこの3つですが、こういった事を計画の中に書き込んでいくことが、アンケートに対するアンサーだと思っています。

【委員長】

今回調査では、スポーツに対する定義の違いがあって、その修正としては8ページの下段にある通り、前回の調査と整合すると低いままであるという状況があったと思いますが、ただスポーツに関する考え方が、このように広く捉えていくという事が、市民の方に前向きなアピールポイントになっていくと思います。以前は健康的な散歩とスポーツは違うという感じだったのが、今は含まれていて、ちょっとした身体活動もリフレッシュ等の意味でスポーツ、運動という考えになっていくという事で、今委員がおっしゃったスポーツのまちという意味での和光市というところに繋げていくのは、とてもいいアイデアだと思いました。

議題2 和光市スポーツ推進計画の骨子について

【事務局】

国や県、市の現計画を参照し、計画全体の構成、現計画の総括、基本方針等の案を作成いたしました。

【第2期和光市スポーツ推進計画「骨子案」について】

骨子については、推進計画の骨組みになるもので、計画の構成を形どったものになります。

（骨子案構成について）

始めに、骨子案の構成について、現在のところの案では、まだ作業段階ということもあり、章立てといたしましては、「第1章 計画の概要」、「第2章 和光市における現状と課題」、「第3章 計画の基本理念・基本方針」の3章からなる構成となっております。

全体構成といたしましては、第4章で、基本方針に付随する各事業を示した「施策の展開」を、第5章として基本理念の実現に向けた「計画の推進」を付け加えて、計画の全体形としたいと考えているところです。

（第1章 計画の概要について）

「計画策定の趣旨」につきましては、『国が定めたスポーツ基本法やスポーツ基本計画、

埼玉県スポーツ推進計画の趣旨を踏まえるとともに、和光市において平成25年4月に施行された「和光市健康づくり基本条例」において定められた、「市・市民・事業者・関係団体の健康づくりに関する責務」を念頭に、今後のスポーツ奨励や健康増進、病気の予防に関する取り組みを一層推進していくために、市の上位計画である「第五次和光市総合振興計画」などの関連する計画との整合性を図りながら、市のスポーツ振興の方向性や取り組みを明らかにし、推進を図っていくための「第2期和光市スポーツ推進計画」の策定を行う』と記載いたしました。

「計画の期間」につきましては、『令和5年度から令和9年度までの5年間とし、今後、社会経済情勢の変化や施策の進捗状況、関連する他の計画の動向等を踏まえ、適宜見直しを行う』とさせていただきます。

また、本計画における「スポーツの概念」については、『競技スポーツをはじめ、体力づくり、健康の保持・増進のために、計画的・意図的に実施する運動のほか、趣味や交流のために気軽に体を動かすこと、レクリエーション活動、日常生活の中での通勤・通学や、仕事・家事の合間の簡単な運動なども「スポーツ」として幅広く捉えていく』としております。

また、計画における「対象区分」は、現計画に引き続き、「乳幼児期」「小・中学生期」「中間年齢期」「退職後・高齢期」の4つの区分と設定しました。

続いて、「スポーツをめぐる現状」についてご説明します。

はじめに、「国の動向」としては、令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、この新しい計画においては、「開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承・発展に寄与する重点施策」が提示されています。また、スポーツの価値を高めるための「新たな視点」として、『スポーツを「つくる／はぐくむ』、『「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる』、『スポーツに「誰もがアクセス」できる』という3つの視点が示されております。さらに、「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策」が具体的に提示されたものとなっております。

続いて、「県の動向」といたしましては、現在、令和5年度からの5か年を計画期間とする「第3期埼玉県スポーツ推進計画」の策定に向け、埼玉県スポーツ推進審議会において審議が進められており、新たな計画では、基本理念を「スポーツでつくる 魅力あふれる埼玉」とし、「誰もがスポーツに関わり親しめる機会の創出」、「世界に羽ばたくトップアスリートの輩出」、「社会におけるスポーツの力の発揮」の3つを基本目標とする施策が検討されているところです。

また、現在の社会情勢として、「少子高齢化社会の進行」や「新しいスポーツの広がり」、「オリンピック・パラリンピック競技大会の開催」、「SDGsへの役割」、「新型コロナウイルス感染症への対応」について、整理して記載されております。

（第2章 和光市における現状と課題）

『第2章 和光市における現状と課題』について、こちらでは、市の現状を表す指標といたしまして、「人口」、「人の動き」、「健康」の3つについて整理しております。

まず初めに、市の「人口」については、将来にわたって増加傾向が続くと予測されており、生産年齢人口と老年人口については微増、年少人口については、将来は微減に転じる

ことが予測されています。

また、「人の動き」について、和光市では、市内に住む方のうち通勤・通学される人の半数が都内への移動となっております。

また、和光市から都内へ通勤・通学される人の方が、都内から和光市へ通勤・通学される人より多くなっていますが、反対に、県内から和光市へ通勤・通学される人の方が、和光市から他の県内の自治体へ通勤・通学される人より多くなっています。

また、市民の「健康」につきましては、子どもの体力に関するデータを、現在収集しているところですが、全国的には低下傾向が見られる、という状況となっております。

また、「健康寿命」につきましては、これまでは増加傾向が続いておりましたが、男性では平成 30 年以降、女性では平成 29 年以降に、横ばいでの推移に変化してきております。

続きまして、「スポーツ・レクリエーション活動に関する市民意識調査結果」についてですが、こちらは、「アンケート調査結果の概要」についてご説明した通りとなっておりますので、説明は割愛させていただきます。

続いて、「現計画の評価」については、現行計画において設定した数値目標の評価と、実施事業の評価の 2 つに整理して記載しております。

まず、「数値目標の評価」について、「大目標」として掲げた「週に 1 回以上スポーツをする人の割合を 55%以上とします」という目標では、アンケート調査の結果に基づいて算定した評価値が 66.8%と、設定した目標値の 55%を達成しております。

この大目標を含め、達成、もしくは計画期間中に一旦は達成された目標は 19 項目中 9 項目となっております。また、コロナウィルス感染症の拡大により、現時点では達成されていないものの、計画期間中に一旦は数値の改善が見られ、達成の見込みがあったと考えられる目標が、19 項目中 3 項目となっております。

続いて、「実施事業の評価」について、現計画において予定されていた事業の約 7 割は、期待以上、または期待通りに実施されたと評価された事業となっており、約 3 割の事業は、期待通りでないと評価された、または未実施の事業となっております。

これまでにご説明した、市の現状と、現行計画の評価に基づいて、今後の計画課題を骨子案の 30 ページ以降にまとめさせていただいております。

まず、『「する」スポーツについて』の課題でございますが、「ライフステージに合わせた運動、スポーツに取り組める場所や機会の提供」とともに「スポーツの考え方を広く普及・啓発するための情報発信」に取り組む必要があるとしております。

続いて、『「観る」スポーツについて』の課題でございますが、「市内施設を提供したプロスポーツの開催」や「東京 2020 大会の終了にともなうレガシーの継承」に取り組む必要があるとしております。

また、『「支える」スポーツについて』の課題では、「市のスポーツ推進を支える人材の育成」や「スポーツ活動の担い手となる指導者の育成」に取り組んでいく必要があるとしており、『スポーツ活動の場づくりについて』の課題では、「スポーツに取り組む機会の創出」と「スポーツ施設の計画的な更新」に取り組む必要があるとしております。

（第 3 章 計画の基本理念・基本方針）

最後に、『第3章 計画の基本理念・基本方針』について、基本理念につきましては、市のスポーツを取り巻く現状や課題を踏まえ、これからの和光市では、「市民が日々の暮らしの中でスポーツを身近に感じて、新たな出会いや交流を持つことで、時代に合ったコミュニティや絆を再構築し、健康長寿社会の実現や地域の活性化を図ることによって、元気で豊かな未来を切り拓いていくこと」を目指して計画に取り組んでいくことが必要であると考え、新しく「スポーツ活動の推進による、健康で活力にあふれた和光」という基本理念を設定しました。

また、基本理念に基づき、計画期間中に取り組む市の施策の方針として、「誰もがスポーツを楽しめる環境の充実」、「スポーツによる社会課題の解決」、「地域におけるスポーツ活動の活性化」の3つを設定し、それぞれの基本方針に2つから3つの施策の方向性を定め、実施事業の紐づけを行い、施策体系を設定する予定です。

骨子案については全体の構成と、基本理念及び基本方針、方向性の案を作成させていただきました。前回の計画の基本理念は、「スポーツを通じて健康で生きがいのある人生を実現するために」という設定で、今回の計画における事務局案としては、前回の基本理念と同様に、健康をキーワードとした「スポーツ活動の推進による、健康で活力にあふれた和光」としました。今後、基本理念や基本方針を定め、その方向性に基づいて、市の各課において、こういった施策が展開できるか、実施できるかを聴取してまとめていく予定になります。

【委員長】

事務局からの説明を受けて質問等ございますでしょうか。

【事務局】

骨子の3ページに記載した計画におけるスポーツの概念ですが、一般的にはスポーツは競技スポーツに限られるイメージがありますが、今回のこの計画においては、あくまで日常生活の中での意識した運動もスポーツに含めるという事で設定していますので、その点についてもご意見いただければと思います。

【新井委員】

3ページに、日常生活の中での通勤・通学や仕事・家事の合間の簡単な運動なども「スポーツ」として捉えるとありますが、これは通勤で歩くことはスポーツになるという事です。仕事・家事の合間の簡単な運動というのは、掃除などで体を動かすのがスポーツという捉え方でよろしいでしょうか。

【事務局】

通勤時に嫌々仕方なく歩くというのは、スポーツに含まないと思いますが、体を動かすことを意識した行動、運動はスポーツに含まれるとの設定です。

【横島委員】

いわゆる昔体育と呼んでいたものをスポーツというようになって、体育協会もスポーツ協会に名前が変わりましたが、スポーツを文化的なものとして、広く捉えていこうという考え方になってきていると思います。ただし、従来からある、本来中心的な体育・スポーツ文化、健全育成及び体力強化の中心部分が薄れないように運んでいくべきだとも考えま

す。どうしても多種多様、広く柔軟に捉えると、中心が弱くなってしまい、伸びが少なくなって、小さくまとまってしまうのではないかという危惧がありますので、そこは欠点を補う方向で、多種多様、柔軟な方向に進んでいく必要があると感じました。

【 藤委員 】

スポーツの概念のところで、簡単な身体活動もスポーツとして捉えるという考え方も重要だと思います。私達がスポーツをやろうとした時に、何を考えてやるか、何を求めているか。例えば日常の生活の中で、色々な身体活動がありますが、それが無意識のうちにやっていて、毎日それがただ続いているというだけだと、認識としてはスポーツに含まれず、実際一人一人が体を動かすことに意図を持つかどうか。この辺りの投げかけがあってもいいと思います。体を動かすことによって得られる効果、心の充実、爽快感、達成感等の気持ちの部分でも得られる効果、その辺りを皆さん自覚しているかで、スポーツの捉え方は変わってくると感じました。

【 委員長 】

今までのスポーツの捉え方だとハードルが高すぎて出来ないということだったかもしれませんが、ちょっとした体を動かすことも、スポーツかもしれないということで、それを更に問いかけて、達成感等に繋げていくにはどうしたらいいかということも必要になってくると感じました。

【 事務局 】

スポーツの概念は、確かに意識してというのが重要なポイントだと認識しています。それをどう表現するかということに繋がるとは感じますが、書きぶり等を分かりやすい表現にしていきたいと思っています。

【 鷹栖委員 】

34ページ以降の話で、今回の基本方針の3つの分け方についてですが、まず施策3 スポーツによる共生社会の実現ですが、これは基本方針2に含まれるように私には見えました。もう1つは、基本方針1と2は明らかに違いますよね。基本方針1はスポーツをすること自身が目的の方針で、基本方針2はスポーツがまちづくりや地域づくりに役立ちますという方針であるとした時に、基本方針3の地域におけるスポーツ活動の活性化というところで、基本方針1と重複しているように感じました。例えば施策6・7で推進委員や指導者の支援があるので、これは方針1の誰もがスポーツを楽しめる環境の充実に含まれていてもおかしくないとも考えられると思います。方針は分けているけれども、中身の施策がどちらでも入ってしまうということは、分類が定かではないのかなというところに行きつきましたので、方針の3分類とそれぞれの施策がどこに含まれるのか、もう一度見直した方がいいと思います。

【 大野賀委員 】

私が考えていたのは、基本理念がこれでいいのか。これと方針が合っているか。方針が重複していないかということも大切な事で、私が気にしている健康づくりとか、その辺の内容が含まれるのでいいと思います。あとは最近重視されているのがSDGsで、骨子案7ページの中段に書かれていますが、これと照らし合わせて理念が合っているのか考えた際に、健康や福祉に関連する「健康で」というワードが入っていて、「趣味等を通して充実した時

間を過ごせる」をどう表現するかで「活力」というワードで表現しているのかなと思います。

あと基本方針について、県計画で目標2に「世界に羽ばたくトップアスリートの輩出」というのがあって、これをなくしてしまっていていいのかと思っていました。やはり和光で育つ子ども達が、スポーツで夢を描いて、スポーツをしていこうという希望あふれるまちづくりをしなくていいのかなと。この辺りをもっと盛んにしていけば、競技志向のスポーツも和光で盛んになっていくという事で、ここにいらっしゃる専門家の先生も、むしろそちらを重視していらっしゃると思いますので、やはりここの話をしっかり残しておく、そこを強調する、そこに基づく施策を立てていくことも大事だと思いました。

先程委員がおっしゃった様に、もしこの基本理念の1と3が統合された暁には、県計画の目標2に当たるような内容をしっかりと立てて、和光市として例えば具体的な話で言うと、オリンピックを招致して、具体的なスポーツを売り出していくとか、和光市に在勤・在住する人のトップアスリートにイベントをやってもらうことは、すごく魅力的なのではないかと思います。和光市在住の方でマラソンの川内さんもおられるので、走る系のイベントの企画、それと合わせてマラソンコースを整備したりして、身近な環境を活かして走る事をみんなでやっていこうという目標を立てることも出来ると思います。そういった所をしっかりと考えて、和光の掲げる目標を立てていった方がいいのではないかと思います。

【事務局】

今回の基本方針・施策については、健康に特化し、体を動かそうという部分の位置づけが多い整理となっております。お話がありましたトップアスリートについては、スポーツをやろうという呼びかけの切り口としていたところはありませんでしたが、今回、和光市から競技スポーツの有望選手を生み出すというのも、貴重なご意見として検討していきたいと思っています。

あと、基本理念について「スポーツ活動の推進による健康で活力にあふれた」という位置づけにしていますが、これについても、切り口や表現についてもっといいものがあれば、ご意見をいただきたいと思います。

基本方針の考え方については、ご意見をいただいた中で見直して、もう一度考えていきたいと思っています。他にもご意見があれば引き続き頂戴いただければと思います。

【尾野委員】

私は競技スポーツに関わっています。それと観るスポーツとしてのチアにも関わっているので、和光市の中で色々なスポーツが盛んになっていくことを望んでいます。トップアスリートの人達がたくさん和光市内にもいらっしゃると思うので、力をもっている選手・指導者の方達に、和光市の興味を持つ子ども達に対して、何かボランティアとして私も協力したいと思っています。また、今まで観たこともないようなスポーツを観る機会、またそれに触れあえる機会というものを作れたらいいなという風に思います。また指導している人達は、安全にそのスポーツをさせる力が必要だと思いますが、大げさな事ではなく、和光市内で呼びかけをして、小さなものでもスポーツに関わる機会を作ってあげたらという風に感じました。

【副委員長】

私はスポーツ推進委員ですが、スポーツ推進委員の件に関して、ほとんどの人がスポーツ推進委員を知らない、聞いたことがないという状態が続いていました。このままでは良くないという事で、昨年度からスポーツ推進委員は日曜日に公園に行って、スポーツ推進委員の活動を広めるという形で広報をしています。天気の良い日曜日の樹林公園には、家族連れが非常に多く、そういう人達に「一緒にスポーツしませんか、一緒に遊びませんか」と声をかけ、どこから来られたか尋ねると和光市外の方が多いのが実情です。

スポーツ協会にも 16 の団体がありますが、和光市外の方も多く、一時、和光市のインターネットに載せていただいたことがあって、それを見て電話をして来たという方も結構いました。そういう事から考えると、調査結果の概要を見てびっくりしたのが、18 ページの和光市で実施しているスポーツ事業について、知っているか知らないかというのを見た時に、知らないという人の割合が多いのに驚いて、広報の仕方に問題があるのではないかというのを感じたところです。

例えば 21 ページの「スポーツ推進のための取り組みとして参加しやすいスポーツ行事を増やす」という回答が 44%ありますが、それを増やしたとしても認知してもらえるかという事が一番気になりました。

それから、スポーツ協会に入っている団体の活動を知りたいと思っても、どこでどういった活動ををしているのかが分からない。また、時間がないからスポーツが出来ないという人に対して、少しの時間ができ、何か面白いスポーツがないか思った時に、それを知る術がないということがあるので、もし可能であるならば、例えば毎週何曜日にはこの競技をやっていて、〇月〇日にはこの活動をやっていますというような、そこにタッチをすれば全体がわかるようなものを作ってもらえたらいいと思います。昔は総合体育館の受付の上のところに、今日はどここの団体が体育館や武道場を使っているという表がありました。それを見て、今日はどここの団体が試合をやっているなどその表を見て分かったのですが、2 年位前からその表は出なくなりました。それも現実の部分として検討していただけたらと思います。

アンケートをじっくり見て面白いと思ったのが、スポーツに関する情報がインターネットから 31%、ホームページから 8%、これを足すと約 40%で、この比率をもっと高めたいけば、18 ページの知らないという数字を変えられると思いました。

【事務局】

市で主催している事業でありながら、認知度が低いというのが、今回のアンケート結果ではっきりしました。周知が出来ていなかったというのは、取り組むべき課題だと思いますので、今回の計画では認知度が上がるような施策を考えていきたいと思います。

【委員長】

身体活動を楽しむ人達から、トップアスリートまで、全てのスポーツの段階の人達を包含するような表現をどこかに、例えばライフステージに応じたとか、多様なスポーツの機会と言っていますが、スポーツの段階も多様というのもあるし、そういう表現があればいいと、皆様のご意見を伺って思いました。

【大賀賀委員】

私がこの委員会が始まってからこだわっていたのが、他の市の行政計画との連動という

ところで、よく考えてみたら健康・福祉だけでなく、子どもに関する教育にも絡んでくるし、18歳以上で言うと、生涯教育の行政計画が立案されていると思います。市内に公民館等の生涯教育施設があって、スポーツに関するイベントを行って普及啓発をしたり、既存施設を活用していくという事と連動できるのであれば、連動していただきたいと思っています。

もう1つは市の基本方針という事で、市がどういう和光市の魅力を打ち出そうとしているのかという直近5ヵ年のビジョンと一致していた方が美しいので、それが福祉的な路線で行くのか、世帯属性で見ると、在勤の方が多いというのが和光市の特徴であり、板橋、練馬とアクセスが良くて、埼玉で言うと朝霞、新座ともアクセスが良い中での、小さな市和光で何が出来るのかという前提を押さえておく必要があると思います。

福祉で言えば、介護予防が盛んに展開されていて、お年寄りの健康づくり・居場所づくりが行われていて、今年は介護保険事業計画を立案することになっています。ここの骨子案では27ページの中段に記載がありますが、これはテクニカルな話であって、健康づくりや居場所づくりが、お年寄りのみならず、福祉施策一般で行われているので、健康づくりもスポーツと位置付けて、もう少し体を動かそうと発信していくとか、そういうところにスポーツ推進委員に関わってもらうとか、そういった事で既存の和光の取り組みがスポーツ色に染まるというのもあると思うので、そういった所を是非スポーツ推進委員発信で、書き込めたらいいと思いました。例えば和光市でヘルスサポーターという人達がいて、講座を受けて、様々な体操教室の指導員になっているので、その講座にスポーツの要素を入れるだけで、更にスポーツ的になると思うので、そういう事が可能なのか、是非高齢部局とお話していただきたいと思います。同様に障がいの分野でも、地域生活支援事業というのがあって、先程確認したら、社会参加支援のところの事業を押すメニューがあって、内容を確認すると、スポーツ大会が行われていました。それもいいですが、障がいの方が通っている事業所がありますが、そういうところにスポーツの要素を入れたり、スポーツ的な人を派遣していくのも考えられるかと思います。子ども子育てにも同じような事業があって、子どもの健全育成のところで、しっかりとスポーツ的な要素を取り入れることを確認していただければと思います。

行政計画で言うと以上になりますが、他のデータを色々見ると、環境整備が出来るのか、和光市内の圏域全体に展開されているか、身近な所にスポーツ出来る所があるのかが重要だとアンケートでも言われています。

市役所隣に新しい施設が出来たと思います。それと総合体育館が和光市内の2大インフラになっていますが、北のアクシスがなくなると聞きました。アクシスがなくなった後の北の拠点がつくれるかというのと、南の拠点があるのかというのがあるので、和光市内に小さいですが日常生活圏域内に運動のハードの拠点がつくれるか、整備が出来るのかというのは、最初に考えるべきだと思います。それができないのであれば、先程申し上げたように、ソフトの部分で身近な環境の公園等をしっかりと整備していくのが重要かと思います。そういった部分をしっかりと考えていただきたいと思います。

【委員長】

骨子案を策定していきますが、下から組み立てていくと、基本方針の1から3のどこに

含まれていて、どんな文言だとそれが表現できるのか、何かアイデアありますか。

【 大夢賀委員 】

スポーツの福祉的な関わり方から、競技志向までをちゃんと網羅しているかという軸を作るのと、あとライフステージに応じたというところをきちんと確認する軸が必要だと思います。18 歳未満の子どものところと、18 歳から 59 歳くらいまでのゾーンと、高齢者のところと、高齢者ばかりという意見がおそらく出ていたりするので、バランスよく、全世代に対するスポーツ振興計画が立てられているのかという軸は大切にしたい方だと思います。

【 事務局 】

今委員のお話にありました環境について、市役所の近くに最近オープンした市民プール、あとは樹林公園内に、総合体育館があります。お話がありました北側のアクシスについては、アリーナを貸し出すという事は続けますが、トレーニング施設についてはなくなるという計画で進んでいます。

屋内施設に限ると、確かに北側は屋内施設はない状況になるので、公民館や既存の学校の体育館等で事業の実施は考えられるかと思います。あとは身近なものとして公園が考えられると思うので、公園で出来る事業等も含めて検討していきたいと思います。

あとお話にあったアスリートの件については、今の計画案では競技者の部分に大きく触れていないので、貴重なご意見として検討したいと思います。

【 委員長 】

他に何かご意見ありませんか。

【 事務局 】

今回、貴重なご意見を頂いたところですが、資料を見ていただいた中で思う事がまだあると思いますので、10 月 7 日までに事務局の方へご意見をいただければ、その内容を反映できるか検討させていただきたいと思います。

議題 3 その他について

【 事務局 】

ご意見をいただいた中で、基本理念及び施策について、各課に意見聴取して、計画に反映し、素案を作成します。

また、10 月 15 日（土）と 18 日（火）に意見交換会を実施する予定です。スポーツをしていない人が、スポーツを始めるために、また、和光市全体でスポーツを行いやすい環境を整えていくためには、など、一般市民と、各種関係団体の方に参加を募って、意見交換会を実施する予定です。

策定委員会につきましては、今回いただいた意見を反映し素案を作成します。その中で、各課に意見聴取したものも計画に反映し、11 月中旬に計画の素案を提示させていただきたいと思います。正式な日程については、調整後皆様にご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【 委員長 】

色んな案が各委員から出ました。各課からは出ないかもしれませんが、例えば広報の事とか、福祉とスポーツ推進委員の協力体制とか、そういう具体的な話もありましたので、上手く載るかは別の話ですが、そういう部分も含めてもらえたらと個人的には思っています。副委員長何かありますか。

【 副委員長 】

既存の施設を使っていくというお話で、こないだ公民館の人とお話をした時に、今まで公民館は年寄りの習い場所というイメージがあったけれども、できるだけ子どもを入れていこうという形で、今活動を始めているというお話でしたので、公民館ももっと利用できるのかなと思いました。それだけ付け足しいたします。

【 委員長 】

ありがとうございました。それでは以上で皆様のご協力により全ての議題についての協議が終了いたしました。これをもちまして、本日の運営委員会の議長の職を降ろさせていただきます。

【 事務局 】

本日は長い間、貴重なご意見をいただき大変参考になりました。事務局として良い形で素案を作成できるように尽力して参りますので、引き続きご協力よろしくお願いします。本日の会議は以上になります。ご協力ありがとうございました。